

Reunion 01

MISOKA FUMIZUKI

◇ 文月晦日 ◇

Circle ruki-EXISS Presents



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止







いつからだろう

こうやって…
好きでもない男達と
身体を重ねる様
になったのは



断ち切る機会は
幾度もあったはずだけど

私はそれをしなかった



カズン

『依存』？

ムニッ

カズ、

モ

ジュッ
ジュッ

確かにそれも
あるかもしれない



ほあ

ほあ

…でもそれ以上に
あの人に気付いて
欲しかったから
かもしれない

ほあ

ぼた、

あの人に…
止めて欲しかった
ただそれだけ
かたしれない

じろっ



...さん



...父さん



父さん

ちよじなら

人には誰にだって忘れたい過去や
変えたい記憶、長い月日で捻じ曲がってしまった思い出の
ひとつやふたつ、あるはずだ。

炎に包まれたニブルヘイム。
セフィロスの暴走。
父親の死。

あの時の私はただ、そうするしか出来なかった。
それが一番だと信じていた。
決して衝動的ではない。

願っていた結末だったの？
その後溢れた涙は具現化された後悔だったの？

父親の亡骸から引き抜いた刀を持つ私の一番の望みは
セフィロスに殺される事だったのかもしれない。

何処にでもある
ごく普通の家庭
普通だけど 毎日が
平和で幸福な日々



辺境の里ニブル Heim で
「ニブル」一番の幸せ者」が
ログセだった父が 私に
とっての自慢でもあった

母が死ぬまでは



美しく 強く お前も
母さんのように生きろと
ログセが変わった日から
次第に父の行動や言動も
変わっていった



ハア

父……さん？

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

——その夜 父は
親の殻を破り一匹の
ケダモノとして私の
寝室に訪れた

血走る瞳 浮出た血管
そして・・・以前見た
ソレとは明らかに違う
振り返った父のペニス

父さん？
え？何？

キレ

やつ・・・
いやああああ
あああああつ！

その時の私は父親の
気に障る事をしたのかと
ひたすら謝るしかなかった

許しっ
あっ

ごめんなさっ
ごえんらさい

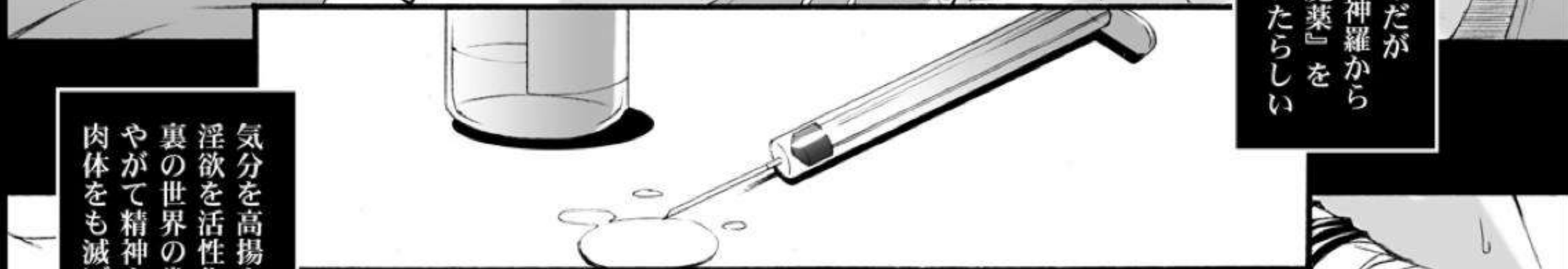
何度泣いて謝っても
父の太い腕は私の衣服を
剥ぎ取る事を止めない
やがて全裸となった私の

『はじめて』が

いぎっ



後で知ったのだが
この時 父は神羅から
横流しの『魔薬』を
手に入れていたらしい



気分を高揚させ
淫欲を活性化させる
裏の世界の常備薬
やがて精神を崩壊させ
肉体をも滅ぼす…



痛い
痛い
……よ



父の行為は何度射精しても
やむ事は無く 私が泣き疲れ
やがて抵抗をやめても
延々と繰り返された

はあ
はあ
はっ
はあ
はあ
はあ

やがて私は
父に徹底的に
調教された

父親に言われるまま
私は始めて見る中年の
男達の居る部屋に入った

あの……
ティファ……です

いいな ティファ
お前は客の傍で
酒を注いでれば
いいんだ

うん

今日はゆっくりして
いって下さい……ね

そんな辛気臭い顔するな
金が入ったら 後で
美味しいモンでも食いに
行こう

ガキヤ

……うん

薄暗い部屋の中で酒を交わす
中年の男達は 私の入室を
確認すると ニヤケた顔で
中央のソファへと手招いた



男の視線は明らかに私の胸やスカートに集中していた視線を顔と交互させ一層ニヤケる

こりや予想以上じゃねえか



ガキだろうが要は俺らを満足させてくれる身体ならそれで良いんだろ

…あの

ちよつとガキっぽい気がしなくもねえけど

今お酒を…お注ぎ…しますね



はははっ！もう酒はいらねえよ！
今からはお嬢ちゃんの手を嗜む時間だ！

ちよつとやめてくださいっ

父を信じていた部分が無い訳では無かったが心の奥底でこうなる事は薄々感づいていた

つまり
父は私を商売の
道具としたのだ

しゅんっ

何いまさらゴネてんだ
おめえには高い金
払ってんだよ

はあ

はあ

はっ
外して下さい

キィ
キィ

キィ
キィ

はあ

おん
おん



うんぐつ！
ほぶぼつ！
うぼふう！

なんだこいつ
フエラもまともに
できねえのかよ



まあそう言うなよ
こんな田舎で
これだけ上物の女

マン汁じゃぶれる
だけでも俺は
幸せだぜ



おらあ もつと
咽の奥に龟头が
当たる位
飲み込めよ

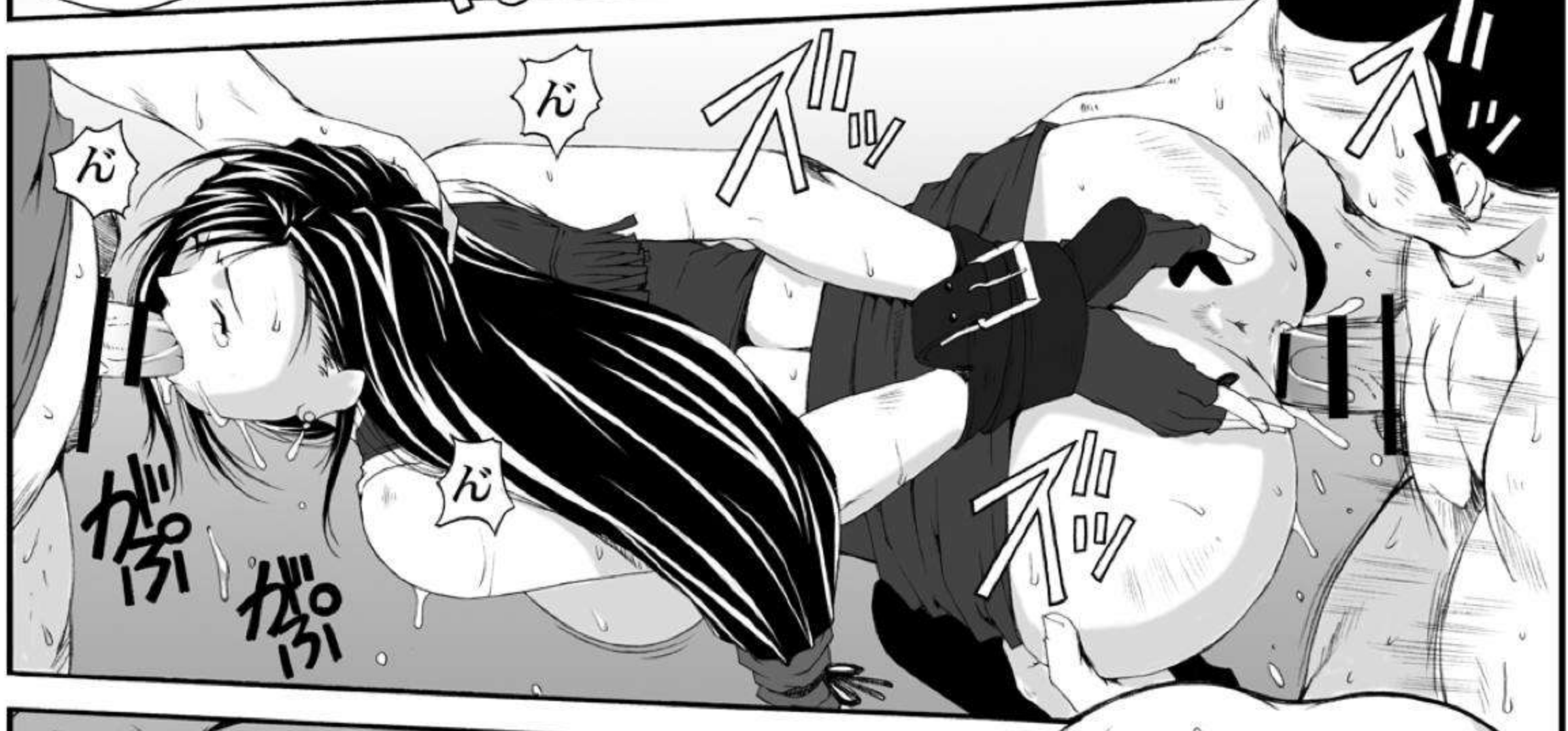
萎えっから
歯あだけは
立てんなよ！



それにむしろ素人
っぽい方が俺と
しては萌えるね



よおし おじちゃん
いれちゃうぞ？
ちよつと太すぎるかも
しれんが簡便な（笑）



うっほ！若え
だけあって
ギンギンに締め
付けてきやがる



膣内の具合の良いし
こりや思った以上の
名器かもしれんぜ

大物に化ける
ってか？



フェラが気に入らねえ
ならこの柔らかか巨乳で
試してみろよ

モミ

アキ

モミ

モミ

アキ

抓つちや
……やあ

ひゃあ

んあ

アキ

アキ

アキ

アキ

アキ

んおつ こりや
なかなかのパイ圧
じやねえか
ふひひつ こりや
確かに名器だわ

溜まっていたモン
一気に出そうだ
おらっ 大きく
口開けて構えろ！



びん



びん

びん

びん

びん

びん



なんだかんだと
文句をつけてた男も
結局その後 3回も
射精していった

また近くまで来た
際には奇らせて貰うわ
次来るのが楽しみだぜ



自分の部屋に戻ると
父が嬉しそうに
お金の枚数を
数えていた

『仕事』を終えた
私に劳いの言葉は
まったく無かった



昔の父の笑顔が
戻るかもしれないと
淡い期待を抱いた
だけに

金勘定でニヤける
父の哀れな姿は
最早取り戻せない
時間を気付かされ
落胆した



それでも私には父しか
居なかった……
共に母の死を悲しんだ
私にとって唯一の肉親

その後も 父の
言われるがままに
様々な客の相手を
させられる事になる

様々な体位を強要され
様々な部位を蹂躪する
アナルを性行为に使用
するのもこの時知った

逆さにされアナルを
執拗に嘗め回した兵隊
の顔は今でも忘れない

はじめて中出し
されたのも彼らだ

父よりも体格の良い彼らは
薬の影響もあったのか
満足させるのに一般客の
倍の時間を要した

拒否権など無い
ただ痛みしかない行為に
私はひたすら耐えるしか
なかった

給水塔からの帰り道
朱色に染まるニブルヘイムを見る。

様々な思い出が炎と灰で包まれていく。

呆然と見つめる先で見知った老人がうつ伏せに倒れていた。

絶命した老人の背には刀が突き立てられおり
その長さからセフィロスの物である事は明白だった。

刀を引き抜き老人に手を合わせた私は父の安否を
確認する為に自宅へと向かう。

そこには大きな鞆に恐らくは大量に納まっているであろう
札束を抱えた父の姿があった。

不安に怯えるその姿には父親としての威厳は無く
ただ自らの命と金を守るのに必死な男は愚かで無様だった。

揺らめく炎の中で
私の心で燻ぶっていた何かの一つの選択の炎が灯った。



ティファア！何処行つて
やがった さつさと
こんな村出るぞ！



金はあるんだ！
今度は大きめの
街へ行つて
やり直す！

…うん

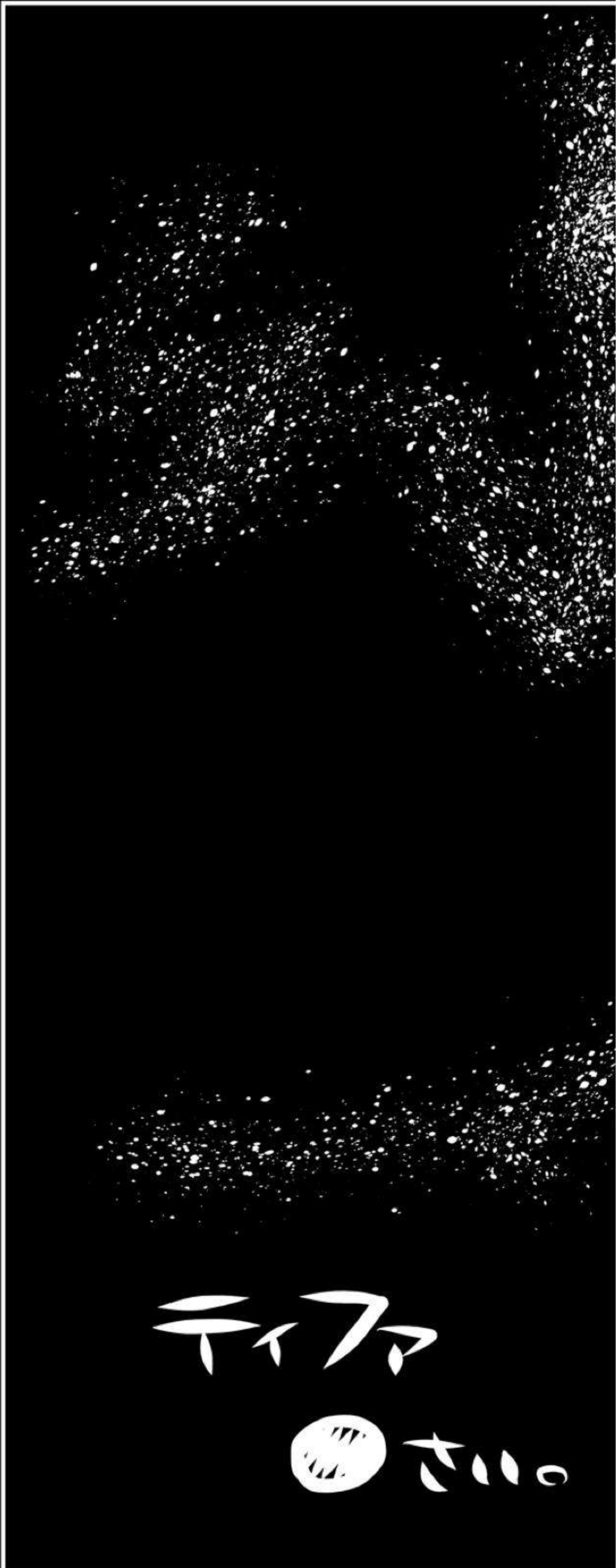


たまたまそこに

刀があったから？



今までずっとしがみ付い
ていた父への好意は
母との思い出が詰まった
この村を安易にを捨てると
言い放つた瞬間
殺意へと変わった



私達は追走する神羅兵たちを振り切りミッドガルを後にした。

バレットの提案通り、ふた手に別れて行動する事を選択したクラウドは何故かバレットとレッド XIII をお供に任命する。

エアリスと私の二人きりの旅の始まり。

女同士、気楽ではある。

・・・クラウドなりに気を使ったのだろうか？

北東の街カームへ向かう際、薄暗い森へと足を踏み入れる。

若い女がたった二人で旅するルートでは無かった。

街道を選ばず最短ルートを目指した結果、森で休息を取っていたガラの悪い男達に囲まれてしまう。

その何人かはクラウドと同じような衣装を身にまとっていた。

はぐれソルジャーだろうか・・・



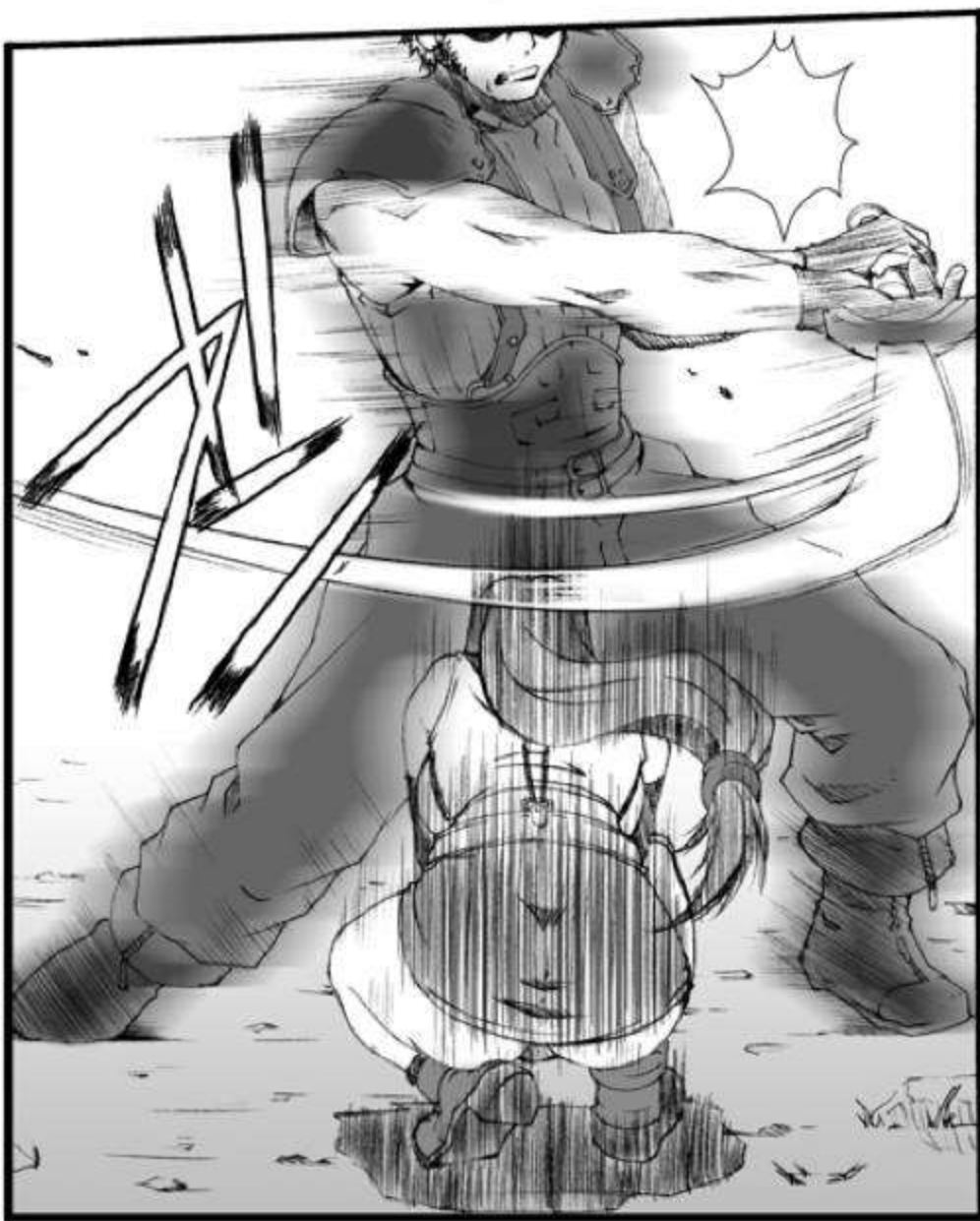
私はエアリスに
後方支援を委ね
一番強そうな男に
照準をあわせる

腕に覚えが
あるってか？
やめとけ
嬢ちゃん

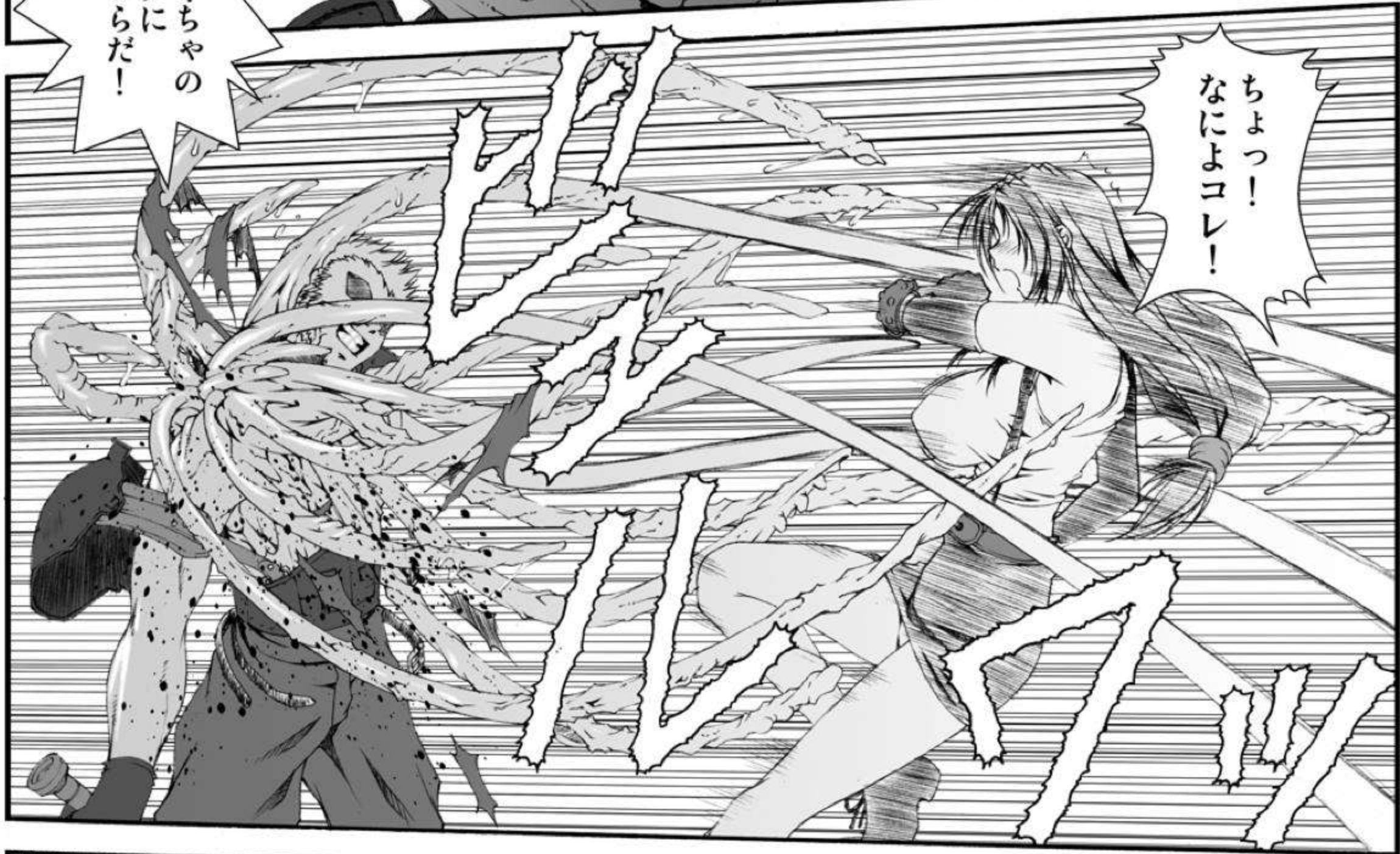


抵抗しなきゃ
そっちが好き勝手
やるだけじゃない？

そっちこそ
痛い思いする前に
立ち去った方が
身の為かもよ！









はうっ
あぐう



エアリスの悲鳴を
聞くより早く
私は不意の一撃で
気絶してしまった

目を覚ました時には
既に体臭のキツイ
男が私の胸の上で
馬乗りになり必死に
腰を動かしていた



ほひっ
たまんねえな

力が…入らない
男達に何かしらの
薬でも投与されたの
だろうか…

ぐっ
ぐっ

ムニョッ

こんだけの乳
なかなかお目に
掛かれんぜ

…おっ!
目え覚ました
みたいですが

ハイズリに勤しむ
男のせいですぐには
確認できなかつたが
恐らく輪姦された
後だろう…

なに…?

んっ…

ギョ

…こんな
弱そうな男にすら
歯向かえないなんて

毛ニョ
毛ニョ

ほっ

ほっ

ほっ

うう…





私が目を覚ました
事に気付くと
一番若そうな男が
身を乗り出してきた

へへ
見てたら俺も
挟んでみた
なっただけ

あっ

モテモテ

ムイッ



おめーは下の
穴に突っ込んでろ

既に俺たちの
ドロドロだけ
なっ

はははっ

ムイッ

ムイッ



んおおっ!
こりや凄えなっ!
弾力が半端ねえ!

でしょでしょ
病み付きでしょ?

ズボッ

ズボッ

ズボッ

ズボッ

ズボッ

ズボッ

ズボッ



結局こうなっちゃうのか…私クラウドと再会して少しは嫌な過去も断ち切れると思ってたのに…



エア…リ…?
いやあああ
ああああ!



そーいやあつちの女…泣き叫ばなくなつたな…
食われちまつたか?



そうだ…
エアリスは
エアリスは



あつち
あつち



なんだコイツ
急に喚きやが
って

あっちの女は
無事だとも
思ったか？



残念だった
なあ！

ひぎっ

スボ

おめえの連れは
アニキの触手で
穴と言う穴塞がれて
さっきまでぴーぴー
泣き叫んでたんだぜ





クラウドの馬鹿！
か弱い乙女が二人も
ピンチだったのに

はう
なんで肝心な時に
居ないのよ！
馬鹿馬鹿！
ばかああああ！



まだ食われてない
だけありがたいと
思いなや



ふへっ！
コイツ相当
慣れてんな

アナルもかなり
使い込んでる
みてーだ



ふんっ
おめーならオレを
満足させてくれる
ってか？



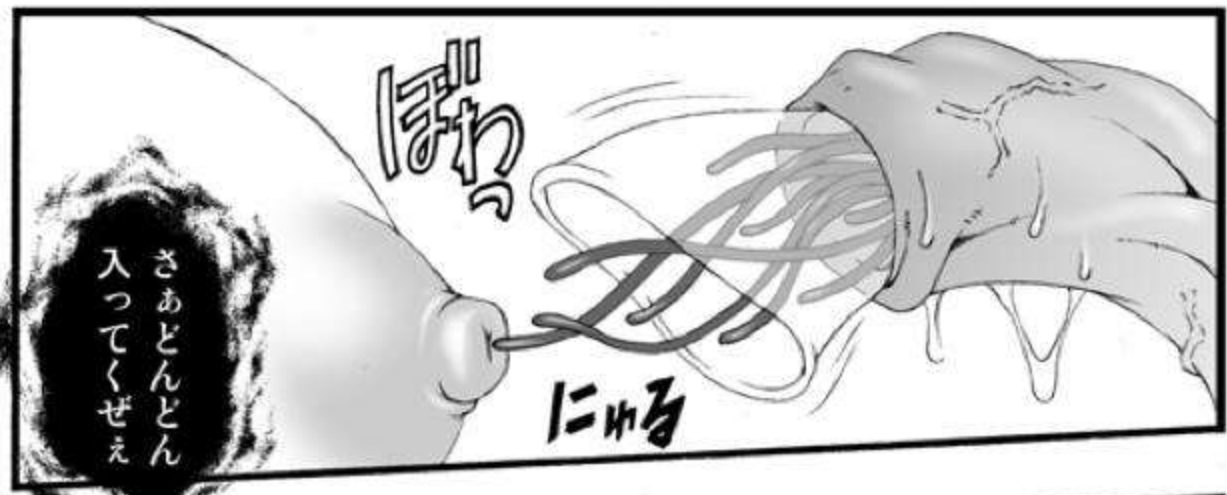
彼女が解放
してあげて…
私が…代わり
に…

…
お願い











さあ今度は
何処が良い
鼻か? 目か?

うばほ

ぐんぐん

んほ

ぐんぐん

ぐんぐん

ふへっ

んほ

んほ

はげしく

はげしく

んほ

はげしく







やめっ

止めっ

あーあーあー

どろ

どろどろ





巨大なイチモツが内臓を突き上げると同時に
私は再び意識を失った。

薄れゆく意識の中、走馬灯を垣間見た気がするが
恐らくその殆どが男達に戮られた記憶でしかないだろう。

もう二度と目を覚ます事は無いと思われたが
聞き覚えのある声で意識を取り戻す。

クラウドだった。

力の入らない身体で目だけを必死に動かすと
私やエアリスを犯していた男達の骸が横たわっているのを見る。
中でもあの化け物は執拗にトドメを挿されたのか
原形を留めない無残な肉片でしかなかった。



…フア

携帯電話が繋がらない事で心配になったクラウドは先着したカームからわざわざ引き返したらしい



見上げたその表情は最近では見せることの無かった今にも泣きそうな顔だった
…でも逆にその表情が私を安心させた



…クラウド



…また助けに来てくれたね…ありがとう

でもネ…いつも来るの遅いよ



不展途上。

マリン、ちよつと変わりに出てくれない？

ズルルルルッ

むっ

…そっか
出かけてるんだっけ



はいはい
今出ますよ



1年ぶりだな
元気だったか？

アバラランチの連中は
全員死んじまったって
聞いてたもんでよ




忙し…

おうおめえ
ティファか？



はい
ストライプデリバリー
S・Dサービス
当社は何でも屋です
ご用件は？

って言うか
バレットだよな？
今とつても…



早速なんだがよ
お前らアバラランチに融資してた
2千万ギルとその利息分……
今となっっちゃ利息の方が金額が
でけえんだけどな？

くくっ……
まあどうせスグにや
返せねえだろうが？

んでだ 今まで通りおめえさん
の奉仕次第で利息の何割か帳消し
にしてやっからよ な？
いつもの場所で待ってるから
今すぐ来いっつー話した

昔話しをしに来た
んじゃないの

いよう
ようこそ俺達の
『約束の地』へ

おめえもココに来んの
1年ぶりだろ？
昔はココで随分色々
楽しませてもらったから
なあ

……くくつ
ミニスカートは
やめたのか？あ？

お店とか子供達の夕食の
支度とか色々忙しいんだから
さっさと済ますわよ



羨ましいねえ
クラウドちゃんは
毎日この乳モミモミ
出来んだからよお

ホラ！次は
何したらいいの？
オナニー？フェラ？

クラウドとは
アンタの十分の一も
寝てないっての

…人の話
聞けっての

する

よお新入り
最初選ばせて
やんよ

え！
まじっすか

ギョ

へへっ
すげえ光栄っす

んじゃあ…
俺この子のオシッコする
ところが観たいっす

ちよっ

びん

そこのきったねえ
便所でやってもらいま
しようよ

放尿！ 放尿！

くっ



つつー事らしいぜ？
俺のかわいい弟分の
かわいい注文だ
そこの便所でしょんべん
すりや良いだけだ



そりや前に放尿よか
もつと恥ずかしい事
やってるもんなあ？
なあ？ティファよ

ドキ

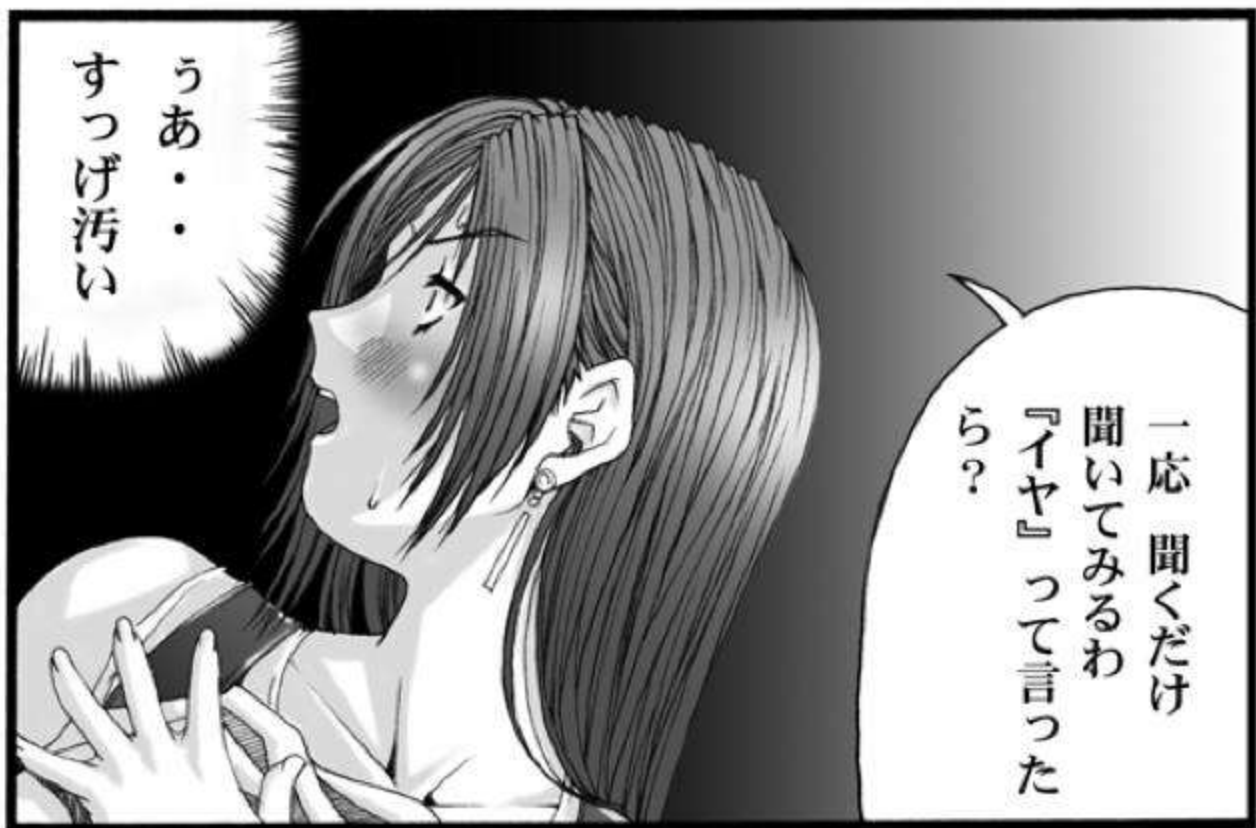
ドキ

ドキ

スルッ

スルル

・・・拒否したらしたで
借金の請求迫るだけだし



うあ・・・
すっげ汚い

一応 聞くだけ
聞いてみるわ
『イヤ』って言った
ら？



ん？

・・・よね

だあめ



うは あの子
随分素直っスね
やる気っスよ

スルッ

もうちよつと
抵抗すると
思ったのになあ

…こんな時に
限ってスグ…

かあ

うっは！出た出た！
可愛い顔して本当に
やつちやつてるっス
よあの子！

ドゥ

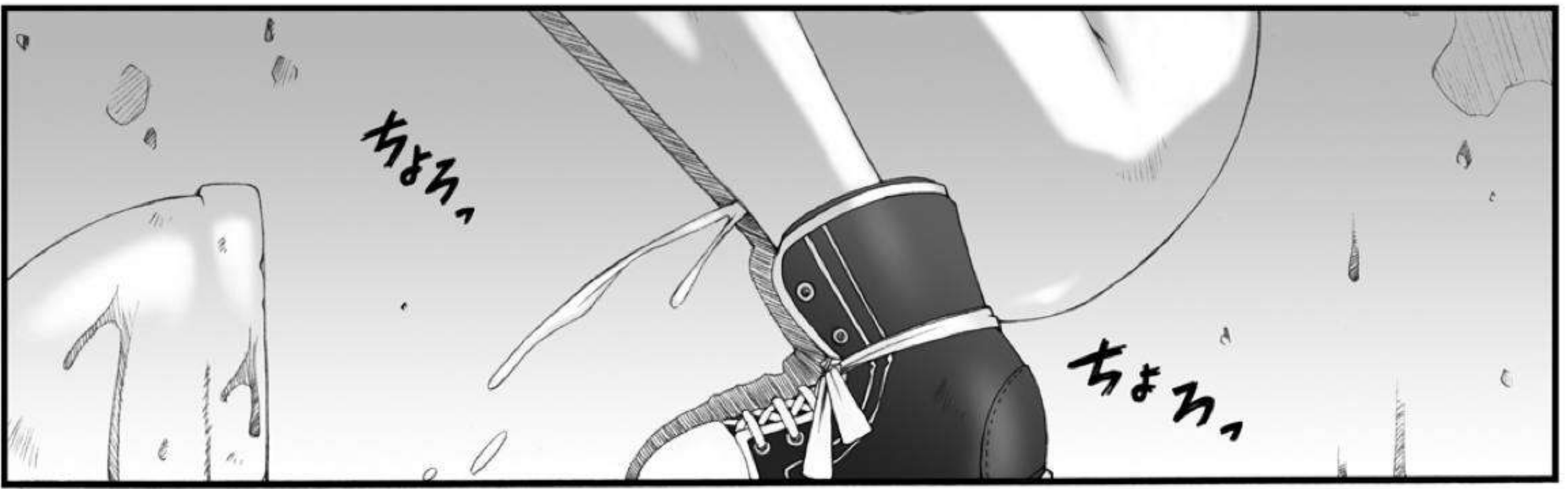
ドゥ

ちよりっ

ちよろろ

オラツさつさと
シヨンベン
だしちまえよ！

んわ



ちよんっ

ちよんっ



おおすげえ
俺こんな間近で
観んの初めて
っスよ!

オイ！ いつまで
うづくまってるんだ
早く連れて来い



とりあえず兄貴が
満足するまでは
帰れないと思うから
頑張つて奉仕しちゃつて
よ

ぐわっ

きや

あぐっ

ギョッ



ははっ
やっぱ放尿だけ
じゃ満足する訳
無いよな

ちよ・拭いてな

聞いたと思うけど
あんたらの借金の額
マジ半端ねえんだわ



あもちろん
俺も色々と気持ち良く
してもらおうっスよ？



パイズリも
慣れたもんだな

初め頃は上手く
挟めなくて毎回
イライラしてたっけな



俺はやってもらう
よか『犯る』方が
好きっスね



へえ
そうだったんスか



くくっ
おめえの性癖も
随分と
偏ってやがんな

ごほっ

ほま

ごほっ

ごほっ

そおかなあ？
ダチとかみんな
こんな感じっすよ？



かびっ

うえぐっ
ごっつ！
ごほっ！

ごほっ

ごほっ

ごほっ

ごほっ



ふあ

きやっ

わ

さて そろそろ
シヨンベン臭えマ●コ
掻き回してやっか！





フン だんだん
昔の『顔』に
なってきたやがった



いひい!
そんなに音...
たてちゃイヤあ!

おまんこコレ以上
磨めないでえ

舌で
かき回さ
ないでえ



声もさつきよか
エロくなってる
っスね

一度『調教』した
メスはどんなに
猫かぶってたって

ちよつと弄れば
元の鞘に納まるのさ

んっ!

やべこのエロい
身体と声聞いてたら
マジ我慢出来なく
なってきた

キキキキ

ぺちよ

じゅるっ

ぐぐっ

ガッ

ズ

ズ

うへっ
エロい尻してやがんな
今ブツ挿してやつから
ケツ上げな

ポタ ポタ

びん びん



はい



言葉や態度とは裏腹に私の快楽に対する欲求は

膣内は兄貴に任せて俺はアナルにしとくっス

そっちは



返す宛など無い多額の借金を少しでも軽く...



この借金取りの男達の数分の前戯によって1年前のあの時に戻ってしまったていた



おお おお ぎゅんぎゅん 締め付けるう

アナルは... だ...めえ

...今だに過去の傷を引きずるクラウドや宛も無く石油を掘ると出かけたパレットに

ひや...あ めえ...だ... ひやめえ...

いぎっ つつつつ ひぐう!



いったいこの身体で
今まで何人の男達の
相手をして

もっと
突き上げてえ

もっと



そして毎日の接客や
孤児達との生活に
欲求を募らせていたのは
事実なんだ

あん

キョッ
すっごい

気持ち
いい!



いくららの借金を
返済したのだろうか?



うっしいくぜ!
お前さんの
大好きなヤツだ

借金の返済が
『建前』
になったのは...

はあ



← || to be continued



NEXT

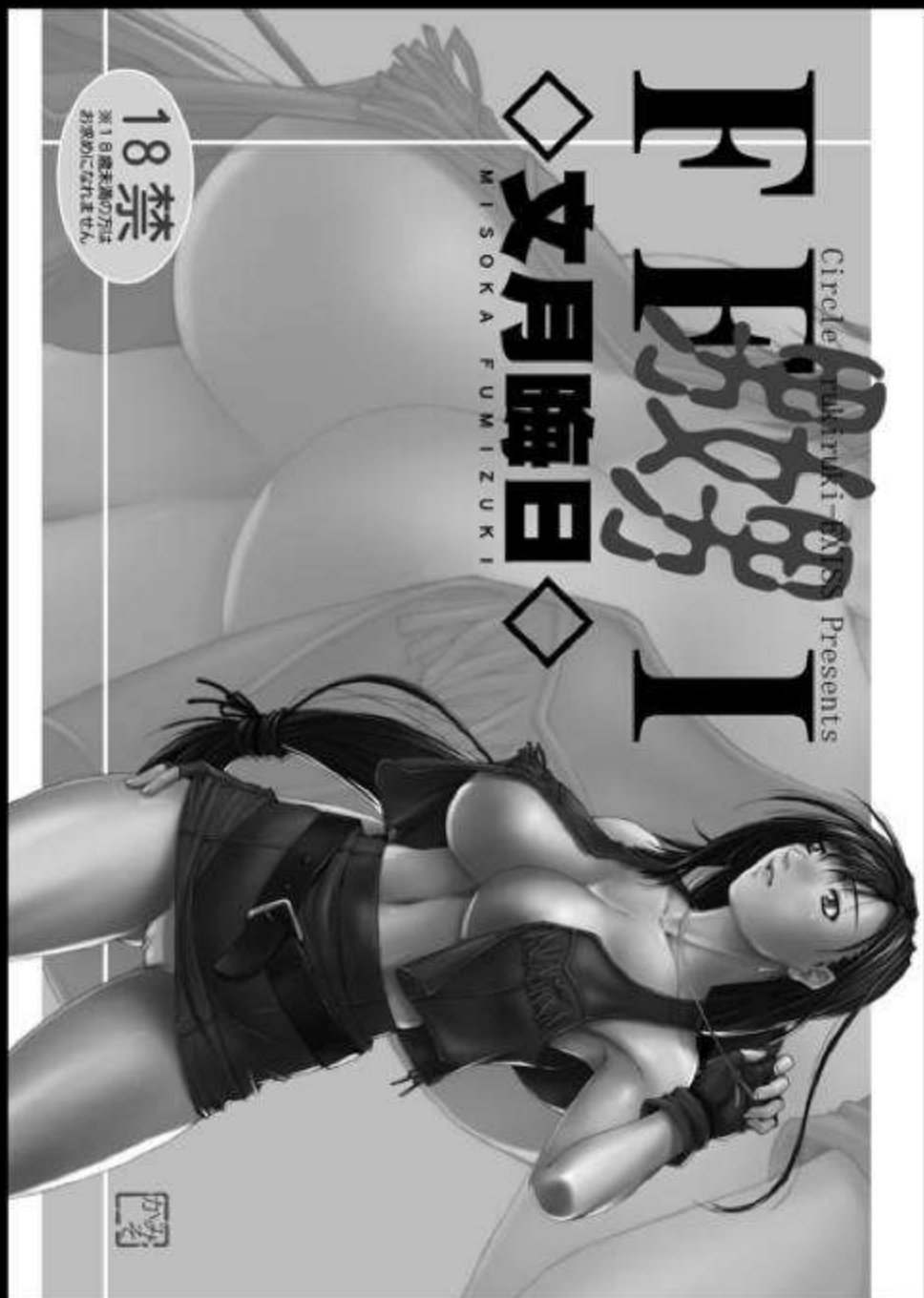
FF 娯 reunion 02

テイファのおまんこにむしやぶり付く

ひあっ

さまっ

ぢやう



FF 黙 reunion 01

発行 / るきるきEXISS

著者 / 文月晦日

発刊日 / 2010/08/15

印刷所 / 有限会社トム出版

※無断転載、複製、データ化の禁止

※18歳未満の購入、閲覧禁止

<http://misoka.net>

mail: popjam99@hotmail.com



下下嬲 絵集編 1

